



Little Players News

No. 178 2013年 1月

新年あけましておめでとうございます。2013
年も張り切って行きましょう！

紹介コーナー



♪ 今月も、ロシアの偉大な作曲家チャイコフスキー（1840～1893）の代表的なピアノ曲についてお話ししたいと思います。

「四季」 Op.37

この曲集は1875～1876年にペテルブルクの音楽雑誌「ヌヴェリスト」に毎月連載するために作曲されたものです。12ヶ月に対応した12の小品から成ります。季節の自然のみならず、民衆の生活を生き生きと描写したユニークな小品で、その音楽には、祖国ロシアの自然と人々の生活を見つめるチャイコフスキーの暖かい眼差しを感じられます。チャイコフスキーは、それぞれの曲に詩の引用をつけています。聴く人にとってはイメージが膨らむことでしょうし、演奏する人にとっては、手がかりになりますね。全12曲から有名な2曲をご紹介します。

舟歌(6月) ト短調

岸辺に出れば、波が
ぼくたちの足に接吻するだろう
神秘的な哀愁をたたえた星たちが
ぼくたちの頭上で輝くだろう（プレシシェーエフ詩）

ロシアの河や湖での舟遊びによるものです。メンデルスゾーンの「ヴェニス gondola の船歌」は8分の6拍子ですが、この曲は4分の4拍子で書かれています。舟の揺れ動くようなリズムにのって、波のように上下する美しい旋律が歌い込まれます。

トロイカ(11月) ホ長調

遥かな道を見つめて憂いてはいけない
トロイカをあわてて追いかけてはいけない
胸の内の物憂い予感を
かき消してしまいなさい（ネクラーフ詩）

トロイカで走り去って行った人を思う詩です。この曲を弾いてみると、明るく元気な曲調なので、詩を読んで少し驚きました。しかし、凍てつくロシアの冬景色を想像してみると、ものさびしい気持ちが沸き上がってきます。

西川音楽教室

<http://soundwalking.com/>